

# 「戦うお父さん」大和市議会議員 あかみね太一は桜ヶ丘のまちづくりを あきらめない



38歳  
無所属



みね新聞第96号

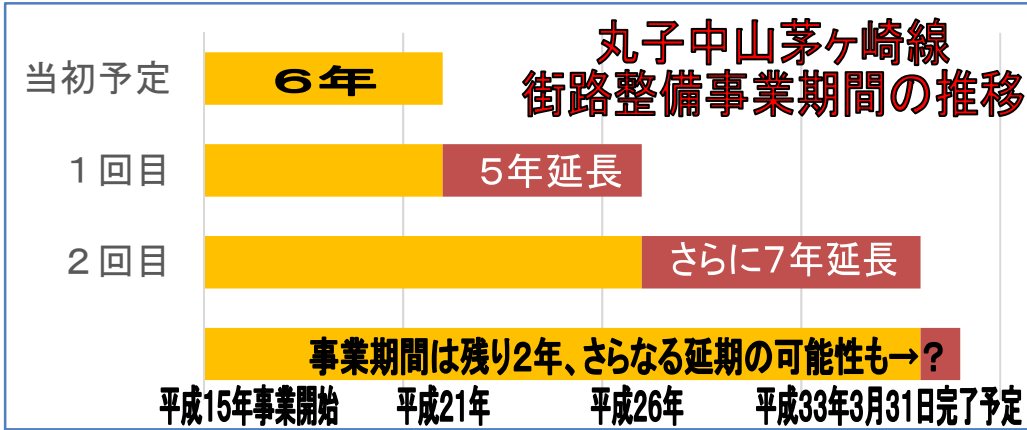
大和カエル活動報告 桜ヶ丘のまちづくり特集

## ■丸子中山茅ヶ崎線街路整備事業の遅れと悪影響

丸子中山茅ヶ崎線街路整備事業は道路を4車線化し歩道を整備する事業ですが、事業開始から16年が経過した今も未だに完成していません。

神奈川県は「残りの用地取得などの状況を見ると、期日までの完成目標の達成はかなり厳しい状況となっている」との見解を示しました。

車道の4車線化による慢性的な渋滞解消と歩道整備による安全性向上は、多くの周辺住民が望むものですが、この事業の遅れにより、街路整備事業が行われている桜ヶ丘駅東側の発展のみではなく、線路の西側を含めて桜ヶ丘地域全体のまちづくりの発展を遅らせる要因となっています。



## ■地域住民の意識が変われば、まちづくりは進む

なぜ、道路の建設が遅れ、桜ヶ丘地域の発展が遅れてしまうのか、そこには3つの問題があると私は考えています。

1つ目の問題は大和市の方針です。大和市都市計画マスタープランでは、桜ヶ丘駅周辺を「将来の立体交差化に応じてまちづくりを進める地区」としており、接続される道路の完成が遅れると、その先にある道路の拡幅と踏切除却のための立体交差事業が実行できず、駅周辺のまちづくりが遅れます。

2点目の問題は神奈川県の意識です。この道路は県道ですので、事業の主体は神奈川県になります。そして立体交差事業の主体も神奈川県です。しかし、これまでも「まちづくりは市の責任」と桜ヶ丘駅周辺の開発に対して市にその責任を求めています。

そして最も大きな問題が3点目の地域の主張にあると思います。現在でも桜ヶ丘交差点には「小田急線鉄道地下化を実現しよう！・鉄道高架化断固反対！」という横断幕が掲げられており、実現の可能性が低い事業の実施を神奈川県や大和市に求めてきました。私は、この地域の主張が街路整備事業の進捗に大きな影響を与え、まちづくりを進めてほしいという地域の思いを分断している可能性を否定できないと考えます。地域の主張が変化することが無ければ、桜ヶ丘駅周辺のまちづくりを前進させることは困難です。



丸子中山茅ヶ崎線  
4車線化完成予想図

■各種データを比較。あかみねは鉄道高架を推進

丸子中山茅ヶ崎線の拡幅に必要な用地の取得状況  
(平成31年1月時点)

事業に必要な用地面積18,400㎡ 進捗率72%



鉄道地下化に必要な用地取得がコスト増と完成遅延を招く

必要な用地面積	鉄道高架方式	用地買収・借地面積	鉄道用地(鉄道西側)	30㎡
			道路用地(道路両側)	5000㎡
	鉄道地下方式	用地買収・借地面積	鉄道用地(鉄道西側)	5620㎡
			道路用地(道路両側)	5000㎡

高架化・地下化どちらも鉄道の騒音は今より静かに

騒音	現在	高架区間	高架アプローチ区間	地下区間	地下アプローチ区間
昼間	61dB	53dB	51dB	0dB	59dB
夜間	57dB	48dB	46dB	0dB	55dB

鉄道高架化で振動も軽減

	現在	高架区間	高架アプローチ区間	地下区間	地下アプローチ区間
振動	50~62dB	43~54dB	47~58dB	40~61dB	41~55dB

高架化による眺望への影響は少ない

鉄道高架区間は、構造物の高さが約8~9.5mの高さになりますが、沿線の建物と比べても突出したものではなく、周辺からの視界を著しく遮る構造物ではありません。

なお、駅東側、西側ともに鉄道高架相当の高さである3階建以上の建物が既に数多く存在しています。

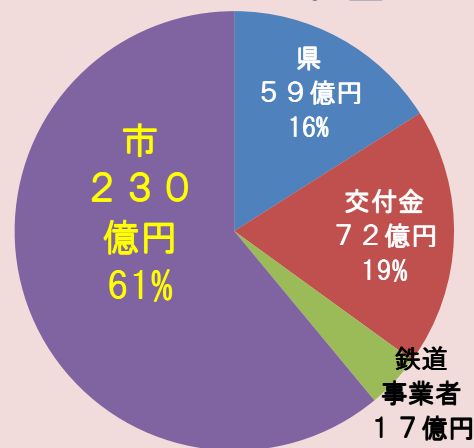
丸子中山茅ヶ崎線街路整備事業の完了後に実施することが検討されているのが、小田急線(桜ヶ丘1号踏切)立体交差事業です。これは、道路と交差している線路を高架化または地下化するもので、お隣の大和駅は小田急線が鉄道高架方式であり、相鉄線が鉄道地下方式となっています。

踏切がなくなることにより、交通渋滞や踏切事故が解消するほか、騒音、排気ガス等道路環境が改善し、線路による街の分断が解消できるなどの効果があります。

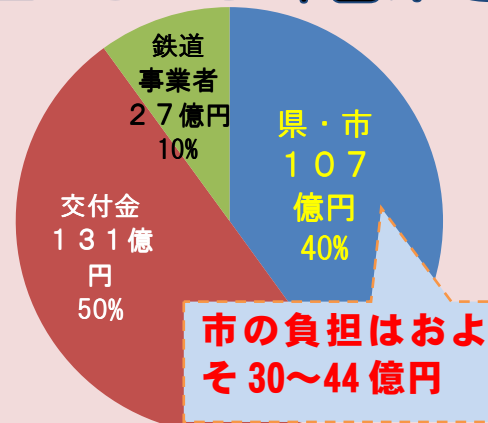
丸子中山茅ヶ崎線の用地取得状況と、用地面積・騒音・振動・眺望・事業コストのデータを記載しました。

皆様はどちらの方式が実現の可能性が高いと考えますか？

鉄道地下方式の事業費  
378億円



鉄道高架方式の事業費  
265億円



平成31年  
4月21日  
は市議会議員選挙の投票日です。

大和市議会議員 あかみね太一  
【プロフィール】

昭和55年11月27日生まれの38歳。妻とダウン症の11歳の娘、7歳の長男(福田小)5歳の次男の5人家族。政党や組織の支援を一切受けずに無所属で市議会議員選挙に挑戦。現在二期目。防災士として各地で被災地支援活動を行い、議会でも様々な災害対策を実現。市内で無料の防災講習会を開催している。初当選から8年間、一貫して議会改革に携わり、現職の議員で最長の経験を持つ。